

血糖値を調整するインスリン

インスリンは、すい臓のランゲルハンス島の細胞で作られるホルモンです。糖分を含む食べ物は消化酵素などでブドウ糖に分解され、小腸から血液中に吸収されます。食事によって血液中のブドウ糖が増えると、すい臓からインスリンが分泌され、その働きによりブドウ糖は筋肉などへ送り込まれ、エネルギーとして利用されます。このようにインスリンには、血糖値を調整する働きがあります。しかし糖尿病の患者さんの場合、すい臓からのインスリン分泌量の低下がしばしばみられ、そのようなケースではインスリン注射薬を使い、インスリンを外部から補ってあげる必要があります。

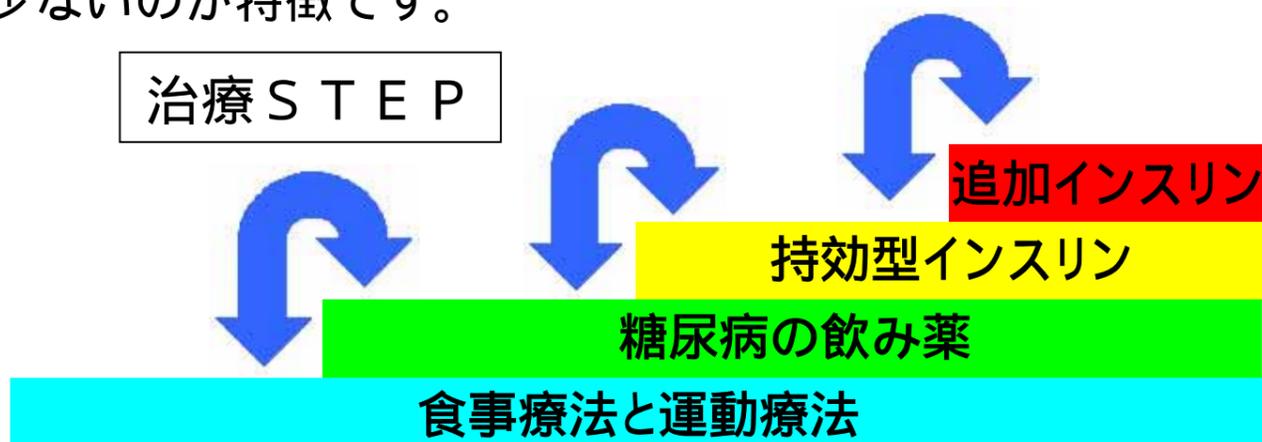
糖尿病瓦版

多種多様なインスリン注射薬

健康な人のインスリン分泌パターンを再現するために、多種多様なインスリン注射薬があります。インスリン注射薬は、持続時間などの違いにより、超速効型、速効型、混合型、中間型、持効型の5種類に分けられます。これらを個々の患者さんそれぞれの分泌パターンに応じて、単独あるいは組み合わせて使うことで理想的なインスリンの分泌パターンを再現することができます。その結果、より自然な形で良好な血糖コントロールが得られ、糖尿病の合併症を予防することができます。

BOT (Basal supported Oral Therapy)

インスリン治療の一つである、BOT (Basal supported Oral Therapy) についてご紹介させていただきます。経口糖尿病薬で血糖コントロールが不十分な人に、使用している経口血糖降下薬に加えて、“持効型”と呼ばれる1日1回のインスリン製剤を上乗せする治療法をBOTといいます。インスリンには1日中分泌されている基礎分泌部分と食事の時に分泌される追加分泌があります。その基礎分泌部分をインスリン注射で補い、食事の追加分泌は自分のインスリンを利用しようというものです。食事時のインスリンは内服薬により助けてもらいます。全ての人に万能ではないものの、経口剤で上手く行かない人は基礎インスリンを1回追加するだけで改善する場合があります。何より1日1回なので手間が少なくインスリン療法に抵抗感の強い方にも受け入れてもらいやすく、すい臓の負担が少ないのが特徴です。



平成二十二年二月版（隔月発行）
春日井市民病院
糖尿病療養指導グループ発行

薬剤師
田中 伸明